

かれいせいおうはんへんせいしょう

# 加齢性黄斑変性症

## 【加齢性黄斑変性症とは. . .】

物を見る中心である黄斑部の網膜下や色素上皮下に脈絡膜から新生血管が生えてくる病気です。

生えてきた新生血管は正常な血管ではないので、出血したり、血液中の脂肪や水分が多量に漏れでたりします。網膜の中へ水分が漏れ出ると、その辺一帯の網膜は水でふやけたような状態（浮腫）になります。その結果、視力が低下します。

## 【原因は？】

不明です。皮膚にシミができるのと同じようなもので、体質の関係した一種の加齢現象と考えられています。

## 【治療】

新生血管をレーザー光線で破壊する光凝固を行います。しかし、新生血管は光線に強くて、消滅させることができない場合がしばしばあります。

また、光凝固は新生血管だけではなく、そこにある網膜も同時に破壊しますから新生血管の生えている場所が中心窩に近いと、光凝固を行うことが出来ません。中心窩を凝固すると見えなくなってしまふからです。

※最近では新しいレーザー治療や新生血管抑制剤の眼内投与法が開発されており、大学病院や中央市民病院で、施行可能となっています。

## 【経過】

みようとす中心部は真っ暗になって見えませんが、周辺部はみえますので完全に失明することは、まずありません。

この病気は治りにくく、レーザー治療はこれ以上進行しないようにすることができるだけで元には戻りません。

日帰り白内障手術施設

眼科 中橋クリニック



7 5 2 - 8 8 1 8